



# 関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

## 愛校心が大切 「夢」実現へ開く年



仕事始めとなる1月4日(火)午後4時から附属滝井病院6階大講堂で「新年賀詞交換会」が行われ、枚方・香里の両病院にも同時中継されました。山下敏夫理事長・学長は年頭所感で「卯年の“卯”は象形文字で開門の形で、今年が運を開き、新学舎という事業を開く年になることを願っている。教職員が一致団結し、愛校心を持って夢を実現させよう」と、集まった教職員に呼び掛けられました。

2～5面 理事長・学長年頭所感

### CONTENTS

法人 年頭所感	2	附属滝井病院	12
学部・3病院で賀詞交換会	6	香里病院	13
大学 平成23年度大学院後期募集要項	7	附属看護専門学校	13
学事 平成23年度推薦入学試験結果	8	卒後臨床研修センター	14
病院	9	医療安全管理センター	14
附属枚方病院	11	同窓会	15

## 法人

## 学部と3病院で賀詞交換会 病院長らが新年の抱負を語る



今年の抱負を語る今村病院長（枚方）

今年度の賀詞交換会を開催、伊藤誠二副学長から「夢実現のため全員で改革に取り組もう」と新年にふさわしい挨拶がありました。

附属枚方病院の会場は13階合同カンファレンスルー

法人主催の「新年賀詞交換会」に引き続き、各部署でも賀詞交換会が催され、副学長や病院長らが新年の抱負を語りました。

専門部学舎5階大会議室では学部新年賀詞交

換会を開催、111名の教職員が参加しました。今村洋二病院長からは年頭の挨拶で「スマートホスピタル：質の高い、効率の良い医療の提供」を今年の目標とする抱負が述べられました。

附属滝井病院では6階大講堂に98名の教職員が参加し、岩坂壽二病院長から「新年を迎えましたが、収支の改善を図り、ここまで順調に回復してきたとはいえ本年度末の3月31日までは気を緩めず頑張ってください」と挨拶があり、続いて高田秀穂副病院長の乾杯発声で始まり、会場は和やかな雰囲気に包まれていました。

香里病院は8階会議室を会場にして、約80名の教職員が参加しました。冒頭、高山康夫病院長より、今年度の目標として設定した「経営体質の健全化」をはじめとする6項目についての所信表明があり、続いて廣原淳子副病院長の挨拶、吉岡和彦副病院長の乾杯の音頭を皮切りに和やかな雰囲気で行われました。

## 手術延長手当と勤務医手当を新設

本学では、診療報酬改定の趣旨に則り、今年9月から第一段階として医師不足が進行する診療科を中心に医師処遇改善を実施してきましたが、さらに今年1月からは「手術延長手当」と「勤務医手当」を新設しました。

手術延長手当は、時間内から時間外へと継続する手術についての手当で1回につき5,000円を支給、平成23年1月1日午後7時以降から適用を開始しています。勤務医手当は、各附属病院で勤務し、かつ病院に在籍する医師に対して一律に手当（病院助教以上10,000円/月、専修医5,000円/月）を支給するもので、1月1日から適用しています。

## 平成22年度寄付金募集中です！ 本学への寄付は税制上優遇措置の対象

## 〈優遇措置の内容〉～法人寄付者の場合～

次の2種類により寄付金額の全額または一部が損金に算入されます。

## 1) 受配者指定寄付金

日本私立学校振興・共済事業団を通じて学校法人へ寄付していただく制度で、寄付金全額が損金に算入されます。日本私立学校振興・共済事業団と本学との事務手続きにより、受領書送付までに2ヶ月近くかかります。

## 2) 特定公益増進法人寄付金

寄付金額のうち、一般寄付金の損金算入限度額と特別損金算入限度額の合計額までが損金に算入できます。大学への直接寄付ですので、ご寄付をいただき次第、受領書を送付いたします。

一般損金算入限度額 = (資本金等 × 0.25% + 当該年度所得 × 2.5%) × 0.5

特別損金算入限度額 = (資本金等 × 0.25% + 当該年度所得 × 5.0%) × 0.5

例えば…◎資本金が5,000万円、所得が4,000万円の場合の限度額 合計1,625,000円

一般損金算入限度額 (125,000円 + 1,000,000円) × 0.5 = 562,500円

特別損金算入限度額 (125,000円 + 2,000,000円) × 0.5 = 1,062,500円

## 特定公益増進法人とは

教育または科学の振興、文化の向上、社会福祉の貢献その他公益の増進に著しく寄与する法人。特定公益増進法人に対する寄付金は寄付金控除等の税制上優遇措置の対象とされています。

本学は、この特定公益増進法人の認定を受けています。

これから決算期を迎える法人の方々には、上記税制優遇措置をご活用いただき、本学への寄付をご検討下さいますようお願いいたします。

※個人寄付者の場合の寄付金控除については前号に掲載しています。

※詳しくは、関西医科大学募金室（TEL06-6993-9556）までお問い合わせ下さい。

ホームページURL <http://www2.kmu.ac.jp/bokin/>

## 大 学

## 平成23年度大学院医学研究科(博士課程)後期募集要項が決定

平成23年度本学大学院医学研究科(博士課程)後期募集要項が決定しました。

一般学生・社会人特別学生・

外国人特別学生募集人員 41名

## ○長期履修制度(臨床系社会人コース)

学外に勤務する臨床医または開業医、もしくは本学勤務の病院助教、専修医の身分を有し、標準修業年限(4年)を超えて一定の期間(5年間)にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願った者については、審査のうえ、これを許可する制度があります。

この制度の適用者を「臨床系社会人学生」といい、当該学生の5年間の授業料総支払額は、標準修業年限(4年)による修了者と同額です。

## ○研修医履修制度(臨床研修医社会人コース)

平成23年4月時点で初期研修2年目となる学外または本学附属病院に勤務する臨床研修医を対象に、昼夜開講制度を活用し履修する制度であり、専門医認定資格獲得と学位取得を併行して行うこととなります。この制度の適用者を「臨床研修医社会人学生」という。

## ○社会人特別学生等事前に出願資格審査を要する者の審査書類受付期間

受付は終了しました。

## ○入学願書受付期間

平成23年1月11日(火)～平成23年2月4日(金)

## ○入学者選考方法

(1) 入学者の選考は学力試験及び健康診断書等を総合して行います。

(2) 試験期日、試験科目及び場所

試験期日	試験科目	場所
平成23年 2月19日(土)	午前9時30分 ～正午 (筆記試験)	外国語 (英語)
	午後	専攻別授業科目 当日通知
		関西医科大学 専門部学舎1号館 4階第4実習室

注：外国語試験

(1) 英文の読解力、記述能力を問う。

(2) 辞書(医学専門用語辞典可)の使用を許可する。ただし、電子辞書は不可。

(3) 外国人特別学生には、日本人と同問題、又は外国人専用の英語問題のどちらかを選択することを課し、本学大学院の履修に必要な語学能力をみる。

## ○合格者発表

平成23年3月9日(水)正午に専門部学舎1号館1階大学院掲示板に掲示するとともに、本人に通知します。(詳細はホームページに掲載の募集要項参照)

## 平成23年度一般入学試験会場のご案内

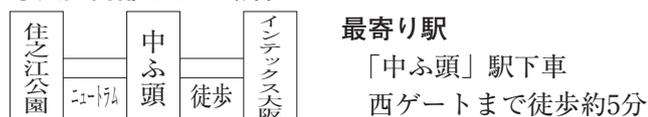
## 1月29日インテックス大阪で

平成23年度一般入学試験は、平成23年1月29日(土)「インテックス大阪・6号館」(大阪市住之江区南港北、右図)で実施しますのでお知らせします。

## ○新幹線または大阪北部からの場合



## ○大阪南部からの場合



## 学生の皆さんへ 大麻の入手・所持の禁止

新聞報道によると、関西の大手私立大学において薬物に関する意識調査を行った結果、大麻について「手に入る」と回答した学生が6割を超えました。

ついては、大麻の所持や入手は法律で禁止となっており、薬物乱用の問題は深刻な状況となっています。また、医師免許の資格要件にも抵触しますし、

本学においても大麻所持や入手により罰せられた場合、退学の対象となります。絶対に関わらないで下さい。

専門部学生部長 山田 久夫  
教養部学生部長 中川 淳

## 学 事

## 平成23年度推薦入学試験結果

平成23年度推薦入学試験は、昨年までの募集定員約20名から約10名に変更し、募集区分は特別枠での募集となりました。結果は次のとおりです。

第2次試験日：平成22年11月21日(日)

場 所：関西医科大学滝井キャンパス

選考方法：小論文、適性検査、面接

合格発表日：平成22年11月26日(金)

募集人員	約10名(特別枠)
志願者	36名
受験者	36名
合格者	10名

## 国家試験対策講演会 受験を控えた6回生に激励やメッセージ

同窓会、加多乃会、慈仁会および大学の共催により、11月12日(金)午後6時15分から守口ロイヤルパインズホテルにおいて、国家試験対策講演会が開催されました。

出席者は、山下敏夫学長はじめ、澤田敏副学長、金子一成国試対策代表世話人、藺田精昭専門部教務部長、岡崎和一教授(6学年クラスアドバイザー)、西山利正教授、岩坂壽二教授、高橋伯夫教授、北尻雅則准教授、四方伸明准教授(同窓会副会長)、河本光平助教の計11

名、学生は、6学年学生の計100名が出席しました。

金子代表世話人の開会挨拶があり、四方同窓会副会長から同窓会・加多乃会の出席者が紹介され、続いて自治医科大学先端医療技術開発センターの小林英司客員教授から「医師国家試験対策ゼミ」として講演が行われました。講演終了後、教職員、学生を交えての懇親会が行われ、国家試験の受験を控えた学生に対して、岡崎クラスアドバイザーから激励、応援のメッセージがあり、終始和やかな雰囲気の中、閉会しました。

留学生の発表会・交歓会を開催  
研究活動や将来の抱負を語る

本学に留学する外国人留学生と外国人研究者の発表会及び本学教員との交歓会が12月20日(月)に留学生・研究者12名と山下敏夫学長をはじめ教職員16名の参加



山下学長を囲み受賞者と記念撮影

を得て開催されました。

最初に、午後5時からの守口ロイヤルパインズホテル3階「平安」の間における発表会では、留学生・研究者から、自己紹介の後、研究活動の内容や将来の抱負、自国の文化や本学での生活など多様な内容を盛り込んだ発表が終始和やかな雰囲気で行われました。引き続いて、隣室「飛鳥」の間に会場を移し、教職員との親睦と留学生・研究者を激励する目的で交歓会が開かれました。尚、今回は従来の立食形式から着席形式で催され、盛会裡に午後7時30分に終了しました。

また、留学生・研究者発表会における発表内容等を審査し、上位3名に優秀賞の贈呈を行いました。

受賞者は次の通り。

- 一等賞 李 一(脳神経外科学講座 大学院3年生)
- 二等賞 陸 景珊(医化学講座 特別研究員)
- 三等賞 劉 琳(共同研究講座 研究員)

## 平成22年度関西医科大学留学研究賞 大学院生の頼さんが受賞

本学の留学生、留学研究者が、本学滞在中に所属教室から発表した優秀な研究論文を褒賞するため、10月中旬から2週間募集を行い、応募論文を国際交流委員会で審査した結果、次のとおり授与が決定し、12月20日(月)の留学生・研究者発表会席上において山下敏夫学長から賞状並びに副賞として名前入りのクリスタルクロックと賞金が授与されました。

被授与者

頼 彦長 (病理学第二講座 大学院4年生)

論文題目

Short-term Pregnancy Hormone Treatment of *N*-Methyl-*N*-nitrosourea-induced Mammary Carcinogenesis in Relation to Fatty Acid Composition of Serum Phospholipids in Female Lewis Rats

## 学 事

ブレインメディカル  
リサーチセンター文部科学省「学術フロンティア事業」今年度で終了  
2月に講演会、3月には終了報告会を開催

平成18年度に文部科学省「学術フロンティア推進事業」の支援を受け、滝井キャンパスに設置されたブレインメディカルリサーチセンター(BMRC)での神経系の「再生」や「自己修復能」に焦点を当てた5年プロジェクトが平成23年3月で終了します。そこで、以下のとおり、講演会と終了報告会を開催いたします。

## ◆講演会◆

タイトル：脳とホルモン  
—分子イメージングから行動まで—  
講 演：京都府立医科大学 大学院医学研究科  
解剖学教室 生体構造科学部門  
河田 光博 教授

日 時：平成23年2月3日(木)午後5時～6時30分  
場 所：滝井キャンパス南館臨床講堂

## ◆終了報告会◆

日 時：平成23年3月24日(木)午後2時～5時  
場 所：滝井キャンパス南館臨床講堂

## ◆終了記念講演会◆

タイトル：iPS細胞を用いた神経疾患研究と  
神経再生戦略  
講 演：慶應義塾大学 医学部 生理学教室  
岡野 栄之 教授  
日 時：平成23年3月25日(金)午後5時～6時30分  
場 所：枚方キャンパス13階講堂

## 病 院

## 附属の3病院 「市民公開講座」

## 枚方 高齢者に身近なテーマ 肺がん・認知症に240名

12月18日(土)午後2時から附属枚方病院13階講堂および合同カンファレンスルームにおいて市民公開講座が開催されました。

当日は今村洋二病院長を座長に、呼吸器外科の齊藤幸人准教授が「肺がんの治療～肺がんと正しく向き合うために～」を、また精神神経科の奥川学准教授が「認知症～予防から介護まで～」をテーマにそれぞれ講演しました。高齢者の身近なテーマだけに事前から問い合わせも多く、当日は総数240名の方が聴講され、大変盛況でした。



多くの参加者で盛況の枚方

## 第1回の子供特集に若い母親ら 香里

香里病院では第1回となる市民公開講座が12月18日(土)午後2時から午後3時30分まで8階会議室で開催されました。主催は香里病院、共催は関西医科大学医師会、後援は寝屋川市、大阪府寝屋川保健所、寝屋川市医師会です。

今回のテーマは「こども特集」として小児科の荻野廣太郎准教授が「こどもの冬の風邪～明日まで待てる？待てない？～」、同じく小児科の山内壮作助教が

「こどもの予防接種最前線～新しく始まった予防接種を中心に～」と題した2題の講演が行われました。約50数名の参加があり、若いお母さん方に講演に集中してもらおうとお子様を病院側で預かるなど配慮しました。講演終了後は、お母さんから講演中のメモを片手に、熱心な質問もあり、有意義な講演会となりました。また、ウイルス感染症の流行時期と重なったことから、市民の皆様のニーズに合致した、タイムリーな内容でした。

## 滝井 2月5日(土)に守口文化センターエナジーホールにて

附属滝井病院では、第13回市民公開講座を下記の日程で開催します。受講料は無料です。みなさまのご参加をお待ちいたしております。

開催日時：平成23年2月5日(土)午後2時～4時

開催場所：守口文化センターエナジーホール(京阪守口市駅前)

受講定員：約400名

講演内容：「食べて治す食物アレルギー」 小児科 谷内 昇一郎 准教授

「肥満と運動療法」 循環器腎内分泌代謝内科 大谷 肇 准教授

「食事と生活習慣病」 看護部 大久保 緑 糖尿病認定看護師

お問合せ先：附属滝井病院管理課「市民公開講座」担当係 電話06-6993-9506

## 病 院

## 3病院が趣向凝らした それぞれのクリスマスコンサート

滝井高校吹奏楽部60名が演奏



枚方

## 吹奏楽部の演奏に300名が魅了

附属枚方病院では、12月18日(土)午後2時30分から2階エントランスにて、恒例となった大阪国際滝井高等学校吹奏楽部の皆さん総勢60名余りによるクリスマスコンサートが開催され、今回も300名近い患者・家族の方々が集い、クリスマスソングを中心とした元気いっぱい演奏が行われ、患者の皆さんに憩いのひと時を過ごしていただきました。

## 滝井 コーラス、漫才、太神楽に大満足

附属滝井病院では、恒例のクリスマスコンサートが今年も12月18日(土)午後1時30分から本館6階講堂にて開催され、多くの人たちが楽しいひと時を過ごしました。

第1部では関西医科大学混成合唱団コールクライスによる「ふるさとの四季」やクリスマスソングなどの合唱を、第2部では西川まさと・吉田かおりの漫才、蓬莱屋玉之助の太神楽が披露され、会場に集まった入院患者さんら162名の方が、ほんの少しクリスマス気分を味わい、漫才や太神楽曲芸に大笑いするなど患者さんの心も和んだようです。



大学コールクライスの合唱



ハンドベルでクリスマス気分存分に

## 香里 アカペラに身を乗り出す患者さんも

香里病院では、12月4日(土)午後2時30分から2階エントランスホールにてハンドベルで有名な聖母女学院中学校高等学校コーラス・ハンドベル部を招いて院内クリスマスコンサートを開催しました。

心地よい音色を奏でるハンドベルによる「クリスマスメドレー」「くるみ割り人形」「ソリ遊び」と聞き覚えのあるメロディーが続き、優しい音色がエントランスホールを包み、患者さんや教職員もうっとり。全生徒さんによる「きよしこの夜」「もろびとこぞりて」のアカペラは、患者さんも身を乗り出してクリスマス気分を存分に味わうほど盛り上がりました。

## 大阪府・北河内地域7市合同防災訓練 枚方と滝井の両病院から参加

## 大阪DMAT隊員10名とドクターズカー 災害に備えた訓練の重要性を実感

平成22年度大阪府・北河内地域7市合同防災訓練が11月14日(日)午前10時から大東市深北緑地で行われ、附属枚方病院及び附属滝井病院から大阪DMAT隊員を含む計10名とドクターズカーが参加しました。大阪府の橋下徹知事をはじめ四条畷、枚方、大東、寝屋川、交野、守口、門真の各市長、消防、警察、自衛隊、国土交通省など各機関や地域の自主防災会なども参加した大掛かりなものでした。

この訓練は、上町断層北部で震度5~7の大規模地震が発生し、甚大な被害が出たとの想定で実施、救出・救助機関の習熟度向上と連携の強化及び住民参加によ

る自助・共助意識の高揚を目的としたもので、緊急交通路確保訓練、救出・救助訓練、医療救護訓練、消火訓練、非常食の炊き出し訓練等の防災訓練でした。具体的な内容は、バス・乗用車の多重衝突現場や、倒壊ビルから搬送された多数の傷病者に対し、限られた人員で救護にあたり、重傷者をいち早く救急隊やドクターヘリに引き継ぐという緊迫したものでした。参加したDMATのメンバーも、あらためて災害に備えた訓練の重要性を実感した1日でした。

DMAT=災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム

## 病 院

## 附属枚方病院

## 韓国・国際脳神経外科学会 看護部で初となる海外発表

本学看護部では初となる海外での学会発表を附属枚方病院の看護師さんが行いました。11月1日(月)韓国済州島で開催された国際小児脳神経外科学会で5E病棟の田代安希看護師が「頭蓋骨延長術を受ける患児の看護」と題して発表したもの。日本からの演題は5題あり、その中の一人として選ばれました。「海外の学会で英語発表という初めての経験でしたが、共同研究者の濱田亜意子さん、坂口奈津子さん、脳神経外科の稲垣隆介講師の協力にて無事に発表を終えることができました。発表後、英国と韓国2カ国の出席者から質問があり、内容に非常に興味を持ってもらえたと感じました」とは田代さんの弁。そこで、看護師さんの海外発表の先駆けとなった田代さんに感想文を寄稿してもらいましたので紹介しましょう。

## いろいろな国の人との議論 貴重な体験

5E病棟 看護師・田代 安希

11月に韓国済州島で行われた、国際小児脳神経外科学会に行ってきました。

私は、看護短大を卒業後、こども病院で働き、一度仕事を辞め、看護大学に編入しました。大学で看護研究について学び、教授や看護を目指す学生とたくさん知り合いました。このエピソードを入職時の面接で安田照美看護部長に話したことを覚えてもらっていて、今回、看護部で初めての国際学会での発表の機会を頂きました。これまで、国内の学会に参加したことはありませんでしたが、国際学会は私自身初めての経験でした。

発表は英語であることが多いため、英語圏以外の人とは同時通訳で発表を聞きます。午前中は医師から看護師にむけたレクチャーが設けられており、貴重な手術の映像や珍しい疾患のスライドを見ることができました。午後からは看護の発表でした。日本の看護学会は研究の手順に基づき、統計を出したり、引用文献から考察をする方法が一般的ですが、国際学会の場合、事例を出し、自分たちの看護をアピールすることが多いのが特徴だと感じました。実際に、どの発表も統計や考察を論じるよりもわかりやすく、興味を引くものでした。文化が違えば、看護の視点、重要視するポイント、看護職としての関わり方など様々で視野が国内の学会よりもはるかに広がるのを感じました。

今回私は、「頭蓋骨延長術を受ける患児の看護－発達



英語指導を受けた稲垣講師と田代さん

障害児とその母親に対する日常生活援助について」というテーマで発表をしました。3事例を振り返り、これまでの経験を報告しました。発表のスライドは英語で作成することになっていたのですが、脳神経外科の稲垣先生に協力して頂き作成しました。発表は同時通訳があるので、日本語でということだったのですが、発表前日の夜に発表も英語ですることになっていたことを知りました。もちろん、私にそんな英語力はなく、稲垣先生に発表原稿を急ぎょ英訳してもらい、夜中にかけてホテルで先生に英語の発音レッスンをして頂きました。

初めての国際学会、初めての英語発表で英語圏の人達に向けて、自分の英語が通じるのか不安でなりませんでしたが、色々考える時間もあまりなく、本番を迎えることとなりました。稲垣先生が、できる限りシンプルな英訳にしてくださったので、スライドにゆっくり目を通してもらえるように時間配分に留意し発表しました。

シンプルなのが、逆に興味を持ってもらえたようで、発表後の質問を2カ国の方から頂きました。質問の返答は同時通訳にて、日本語でできました。国籍が違う人達と看護についてディスカッションできたことは貴重な体験でした。

確かに緊張もしましたが、日本のように堅苦しい時間配分や司会進行などがなく、参加者がゆったり、楽しみながら発表を聞いてくれているという印象でした。今後もぜひ国際学会に参加していきたいと思わずし、他の看護師の方々にも国際学会での発表を経験し、おもしろさを感じてもらいたいと思います。



大規模地震発生、亀裂の入った建物

## 病 院

## 附属滝井病院

## 地域連携の会 顔の見える病診連携を目指して

本年度の「地域連携の会」は11月6日(土)の夕刻から守口ロイヤルパインズホテルにて開催されました。附属滝井病院では、病診ならびに病病連携をより緊密にすべく、平成21年1月から「登録医制度」を発足、参加のお願いをしている近隣医師会は、守口市、門真市、寝



挨拶する岩坂病院長 (守口ロイヤルパインズホテル)

屋川市、大東市の各市医師会と大阪市の旭区、城東区並びに鶴見区の各区医師会です。登録医の数も157名まで増えてきましたが、本制度の更なる拡大と充実のために各種の取り組みを行っています。

その一つとして、昨年からの登録医の先生から紹介を受けて、診断と治療をさせていただいた患者さんについての症例検討会として「地域連携の会」を始めています。

参加された登録医の先生は17名で、当院からは22名の医師が参加しました。循環器腎内分泌代謝内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科ならびに整形外科から合計6症例の提示と質疑応答が2時間にわたり行われました。登録医の先生からのアンケート結果によると、この症例検討会は大変好評で、多くの先生方に満足していただいているようです。その後は、部屋をかえて懇親会を開催し、「顔の見える病診連携」を目指した笑顔の交流を深めました。

## 第9回肝臓病教室を開催 「肝臓の正しい知識を持って」

沈黙の臓器“肝臓”に正しい知識を持って、手遅れにならないようにしましょう。附属滝井病院肝疾患センターでは、第9回肝臓病教室を11月6日(土)午前10時30分から本館6階講堂で開催しました。テーマ、講演者は次のとおり。

テーマ1：「肝細胞がん外科治療」

附属滝井病院外科・北出 浩章 講師

テーマ2：肝臓病を持つ人の日常生活

「肝臓にやさしい日常生活」

看護部・寺口 めぐみ 看護師

「肝臓にやさしい食事のとり方」

栄養管理部・細見 恭子 管理栄養士

講演の合間の休憩時間にストレッチ体操で気分転換、あっという間に1時間半が過ぎました。参加者は23名で、講師のわかりやすい説明に受講者は熱心に聞き入り、質疑応答では何点かの質問があり、充実した内容となりました。同センターでは定期的に市民向け肝臓病教室や市民公開講座、医療従事者向けセミナーを

開催しています。一人でも多くの方が参加し、肝疾患に対して少しでも理解を深めて頂きたいと思っています。今後の予定としては、1月29日(土)に医師向けセミナーを、2月5日(土)には下記の第10回肝臓病教室を開催します。



講師のわかりやすい説明に熱心に聞き入る受講者

## ■ 第10回肝臓病教室を開催します ■

第10回肝臓病教室は、下記の日で行います。参加費は無料です。ご参加お待ちしております。

開催日時：平成23年2月5日(土)

午前10時30分～午後0時10分

開催場所：本館6階講堂

当日必要なもの：筆記用具

テーマ1：B型慢性肝炎の最新治療

「B型慢性肝炎の最新治療」

消化器内科 坂口 雄 沢 助教

テーマ2：薬の知識・肝炎助成制度

「薬を有効に活かすためには」

薬剤部 奥山 悦子 薬剤師

「知っておきたい治療費のこと」

ソーシャルワーカー 蔭山 恵子さん

お問合せ先：消化器肝臓内科(午後2時～4時)

電話06-6993-9540

## 病 院

## 香里病院

## 大阪府医師会 現地セミナー 地元医師会から50名が参加

平成22年度大阪府医師会「現地セミナー」が12月2日(木)午後2時から香里病院で開催され、地元医師会の方々を中心に約50名の参加がありました。

当日は、早川貫治寝屋川市医師会長の挨拶に引き続き、高山康夫病院長の施設概要の説明があり、最後に院内の見学が実施されました。

※現地セミナー…大阪府医師会が主催し、地域の基幹病院として高度先進医療を展開している医療機関や特徴的な地域医療を推進している施設を実際に見学することで会員の日常診療の充実に資することを目的に昭和51年から実施しています。



説明する高橋延行講師



## 開院以来初の大々的な消防訓練を実施

香里病院開院以来初となる大々的な消防訓練が秋の火災予防運動の一環として、11月10日(水)午後3時から香里病院自衛消防隊、寝屋川消防署、寝屋川市消防団など94名が参加して行われました。

4階から出火し、自衛消防隊での消火が限界であること、患者と職員数人が屋外庭園に取り残されているという想定で、消防団の郡班が、救出と消火活動をする一方、女性消防団員は看護師の指示で応急手当、搬送するなど参加者全員が訓練とは思えぬ真剣な表情で取り組んでいました。

(写真は、ストレッチャーで患者を避難させる訓練風景)

## 附属看護専門学校

## 患者さんへの感謝忘れず 25回目のキャンドルサービス

教務主任 早見 貴子

附属看護専門学校では、12月17日(金)キャンドルサービスを附属滝井病院で行いました。本番前には入念に歌の練習とリハーサル。そして、本番。看護学生239名が分担して病室を訪れ、夏期休暇中に作成したクリスマスカードを患者さんに手渡しました。

学生は緊張の中にも少しでも安らぎと希望を持ってもらうことを願って患者さんのもとへ行きました。岩坂壽二病院長をはじめ、多くの職員の方々のご協力を得て無事行うことができました。

キャンドルサービス委員リーダーの林奈津季さんは、最後のまとめで、「キャンドルサービスは、ご家族や大切な方と離れて入院生活を送られている患者さんに、少しでも元気になっていただき、一日でも早い回復をとの願いをこめて行わせていただきました。患者



看護学生全員がキャンドルを手に

さんへの感謝の気持ちを忘れず、また、今回患者さんから頂いた言葉を心に刻み、今後の私たちの看護につなげて行きましょう」と挨拶しました。

## 一般入学試験は、前後期の2回実施

附属看護専門学校の一般入学試験は、前期試験と後期試験の2回に分けて実施されます。前期試験の申し込みは12月22日に締め切られ、志願者数は118名でした。後期試験の願書受付は、平成23年1月31日(月)～同年2月10日(木)まで、午後5時必着。

学科試験、面接試験、合格発表は右記のとおり。

## &lt;前期試験&gt;

学科試験：1月12日(水)  
面接試験：1月13日(木)  
合格発表：1月21日(金)

## &lt;後期試験&gt;

学科・面接試験：2月22日(火)  
合格発表：3月5日(土)

## 卒後臨床研修センター



ワークショップ形式での全体討議

### 研修指導医 養成講習会 育力習得に向け活発な議論

平成22年度関西医科大学臨床研修指導医養成講習会が、11月27日(土)、28日(日)の2日間(1泊2日)の日程で、神戸市北区の富士ゼロックス研修施設のスペースアルファ神戸で開催されました。臨床研修指導医となるためには、厚生労働省が定めた指針に則った講習会を受講し、修了証書を得ることが必須条件であり、この講習会もそれに沿った内容となっています。

学内関係者28名の受講参加があり、学外のディレクター、タスクフォースとして、NPO法人卒後臨床研修評価機構専務理事の岩崎榮先生をはじめ、兵庫医科大学地域救急医療学教授の吉永和正先生、高知医療再生機構理事長の倉本秋先生を迎え、ワークショップ形式での、全体討議・グループワーク・ミニレクチャーが行われました。受講者は、臨床研修医の研修に対する教育指導の目標や評価法を理解することおよび基本的な臨床能力を備えた研修医を育成する力を身につけるために、講演に聞き入るとともに、活発な議論が交わされました。講習会修了後、受講者全員に対し、厚生労働省医政局長公式認定の修了証書が授与されました。

### 文部科学省補助事業 看護師復職支援トレーニングを開催

卒後臨床研修センター看護実践支援部門では、文部科学省補助事業の大学教育充実のための戦略的連携支援プログラムの「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム事業」の一環として、11月15日(月)に看護師復職支援トレーニングを開催しました。

これは枚方市内に居住する潜在看護師に対し職場復帰を支援するもので、附属枚方病院看護部教育委員会の協力を得て、点滴・静脈注射、吸引、輸液・輸注ポンプの使用方法など、シミュレーターを用いて、実技を中心とした内容で実施されました。長期にわたり臨床現場から離れていた9名の参加者は、熱心に、真剣に取り組んでいました。指導に当たった看護師さんは、「少しでも復職の一助になればと願っています」とコメント。



シミュレーターを使った実技

## 医療安全管理センター

### 第7回医療安全大会 過去最高の460名が参加、3会場を同時中継

附属3病院合同の医療安全大会は11月19日(金)附属枚方病院13階講堂・合同カンファレンスルームと附属滝井病院南館臨床講堂を二元中継して行われました。

今回で7回目となる同大会は、大学職員の医療安全に関する知識の向上を図る事を目的にしているもので、冒頭に山下敏夫理事長・学長から挨拶があり、神崎秀陽医療安全管理センター長の司会で進められました。参加者は、大学情報センターの協力を得て460名(枚方病院 240名、滝井病院 200名、香里病院 14名、大学 6



会場いっぱいになった枚方での医療安全大会

名)となり、昨年(440名)を上回りました。3会場とも満員の盛況で、活発な議論が行われました。

なお、各病院からの演題は、以下のとおりです。

#### 【附属滝井病院】

- (1)「滝井病院の救急コールへの取組み」  
救急医学科 平川 昭彦 講師
- (2)「滝井病院における新たな抗菌薬適正使用プログラムとICTラウンドの紹介」  
臨床検査部 中矢 秀雄 技師  
血液呼吸器膠原病内科 尼川 龍一 准教授  
臨床検査医学科 正木 浩哉 准教授

#### 【香里病院】

- (3)「香里病院、開院からの状況」  
副病院長 医療安全管理部長 廣原 淳子 准教授

#### 【附属枚方病院】

- (4)「安全なCVカテーテル穿刺 -エビデンスを日常診療へ-」外科 岩本 慈能 助教
- (5)「院内チーム結成! ~診療困難な患者への対応~」医療安全管理部ほか。

## 財団法人加多乃会の現況

本紙Vol.10同窓会の頁に「同窓会と加多乃会はどう違うのですか？」の表題で加多乃会の成り立ちの経過からみた同窓会と加多乃会の違いの要約の記事が「おとづれ編集部」により掲載されました。今回は加多乃会の創設された背景とその後の活動状況を紹介させていただきます。

財団法人加多乃会が出来る動機は何であったのかを加多乃会改組があった1960年前後の同窓会誌「おとづれ」をひも解くと、「加多乃会」とは元々同窓会の名称であった事が判りました。

母校発祥の地「牧野」は、元朝廷の御料地で狩場の「交野が原」の一面で馬の飼育放牧地であり、万葉の頃の地名にちなんで「加多乃会」と名付けられたものと言われております。結論から述べると「財団法人加多乃会」の誕生は同窓会活動を活性化させ同窓生の期待に沿えるためでした。開学以来、在学生の集いは校友会加多乃会と称され会長を学長が務め大学に従属しておりました。1954年男女共学制関西医科大学と改称されたのを機に、校友会を解散し大学から離れ一本立ちとなり同窓会加多乃会と改称し、初めて卒業生から同窓会会長が選出されました。同窓会員が増加し様々な要求や希望が同窓会には上がって来ても、それを受けて活動出来る資金は同窓会費だけでは賄うことは出来ませんでした。

また、同窓会独自の事務室も無く大学の色々な部屋を借りて転々とする状態でありました。

初代同窓会会長となられた1回生川那部喜美子先生は海外視察の際に、欧米諸国で大学、研究所、病院、老人の家等においてそれぞれ基金を持ち、活発に有意義な活動をしていることを見て来られました。帰国後、仕事らしいものをやるためには基金を持つ事が必要と考え、同窓会の活性化と飛躍のために募金運動を計画されました。過去に母校の大学昇格のため日本医療団香里病院の買収時の寄付金協力や滝井病院建設資金協力等大学のために結集した同窓生の力を、同窓会創立30周年を記念して今度は同窓会自身の活動資金確立のため1961年加多乃会特別基金が創設されました。特別基金は同窓会館の建設と同窓生のための諸事業を行うことが目標でした。当時、同窓会加多乃会は社団法人を目指し一層体力の付いた同窓会活動の展開を目指しましたが、法律改正で同窓会を社団法人にすることは困難でした。その結果、同窓会加多乃会特別基金を基に、同窓会会員の相互扶助、後輩の援助、人材の育成、恩師への謝恩の事業、同窓会館の建設等の同窓会理念と法人格を得るため目標を拡大して、公益性のある保健衛生面で地域住民の医療に貢献する活動を持たせる事で財団法人の許可が得られました。

1974年同窓会の名称を譲り受けて財団法人加多乃会が誕生しました。1976年には同窓会館が竣工した際にも同窓会の名称が与えられて加多乃会館と命名されました。加多乃会とは元々関西医科大学同窓会の名称であり、財団法人加多乃会の源流は同窓会加多乃会特別基金であった事が判って頂けたと思います。

財団法人加多乃会は基金協力を得て、現在の活動は同窓会館の維持と運営。同窓会活動の財政面での積極的支援で、同窓生に対する学術、研究援助等の支援。同窓生からの色々な相談に対する窓口活動が行われています。同窓会活動を円滑に行うためには多くの財源が必要ですが、同窓会費を2倍としても十分とは言えないので基金参加による財源が財団法人加多乃会活動と同窓会活動に大いに力を発揮しています。

現在の活動状況は、地域住民対象の地域健康講座が年5回、同窓生と医師会員対象で医師生涯教育制度プログラムの医療勉強会が年5回、同窓会員対象の高齢者福祉に関する研究としての講習会と施設見学会が年2回、そして全国規模学会主催講座対象の学会支援、同窓会館維持運営があります。同窓会と共同の活動は、若手研究助成として加多乃賞が毎年、医師国家試験受験生対象とした医師国家試験支援、在校生を対象とした大学祭と卒業アルバム支援を毎年、寄付による学術奨励としての研究助成各賞9賞と同窓会誌「おとづれ」編纂発行とがあります。寄付金は、加多乃会が受け取り毎年行われる同窓会総会で学術奨励研究助成金として必要額を同窓会へ支出しています(下記参照)。

毎年の同窓会活動支援に向けての支出は、加多乃会の設立理念に基づくものですが、昨今の金融状況では資産の預金による利息から得られる収益は殆どありません。基金収入は会費のように一定でなく、ややもすると同窓会活動への支援資金の財源不足を来す懸念が持たれています。同窓会活動支援の財源確保には定期的なキャンペーンによる財源収入が必要となっております。同窓会から生まれた財団法人です。両者で支え合って大学と同窓生が必要な時に力になれる同窓会・加多乃会であることを目指しております。

今後とも同窓生の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

大原 孝(財団法人加多乃会副会長・32回生)

### 関西医科大学同窓会研究助成のご案内

1. 関西医科大学同窓会50周年記念研究助成「加多乃賞」
2. 関西医科大学同窓会「佐々木千枝子(ささきちえこ)賞」
3. 関西医科大学同窓会「森本園子(もりもとそのこ)賞」  
(1) 森本賞 (2) 森本医療功労賞
4. 関西医科大学同窓会「北西壽子(きたにしとしこ)賞」
5. 関西医科大学「櫻根啓子(さくらねひろこ)賞」  
(1) 研究論文 (2) 国外学会発表 (3) 国外臨床実習
6. 関西医科大学同窓会「藤原登美子(ふじわらとみこ)賞」  
(1) 海外留学助成 (2) 海外出張助成
7. 関西医科大学同窓会「塩崎安子賞」
8. 関西医科大学同窓会「和田喜代子(わだきよこ)賞」  
(1) 和田喜代子賞  
(2) 和田喜代子優秀業績賞(論文又は著書)  
(3) 和田喜代子奨励賞
9. 関西医科大学同窓会「丹家雛子(たんけひなこ)賞」  
(1) 丹家雛子賞  
(2) 丹家雛子医療奨励賞  
(3) 丹家雛子交付奨学金

※平成23年度の募集は1月末に予定しています。奮ってご応募ください。

## お知らせ

## 関西医科大学 概要2010 発行

関西医科大学は、このほど「関西医科大学概要2010」を発行しました。(A4判、55ページ、カラー刷り)

## CONTENTS

建学の精神、沿革、中長期経営ビジョン、枚方新キャンパス構想、大学の組織、教職員在籍状況、医学部の教育目標とカリキュラム、大学院と研究の特長、学術関連施設、入試センター、大学附属病院、附属看護専門学校、卒後臨床研修センター、歴史資料室など。

なお、この冊子をご希望の部署または教職員の方は、若干在庫がありますので、大学事務局総務部広報課までご連絡ください。ただし、希望に添えかねる場合もありますので、ご了承ください。



## 教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成22年11月1日～12月31日)

石崎 優子 講師 (小児科学)	毎日新聞 朝刊 12月17日(金)
「あなたの処方箋」というコーナーで、子どもの過敏性腸症候群(IBS)について、対処法は基本的に成人と変わらないが、子どもの場合は思春期特有の心の問題も絡むこともあり、本人の認識だけでなく家族や学校など周りの理解、配慮も重要であるという内容の記事が掲載されました。	

## メディア情報お待ちしております

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって右記の情報連絡先までお願いします。なお、このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産経、日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたものに限定させていただきます。

## 情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672(内線 2138)  
メールの場合は右記のアドレスへ

## ホームページで閲覧できます

この広報誌は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課までご連絡よろしくお願ひ致します。なお、本学ホームページに既刊の「関西医科大学 広報」をPDFファイルにて掲載しています。

## 送付先変更の場合、お知らせください

「関西医科大学 広報」の送付先の変更が生じた方は、お知らせください。官製はがき又は、ファックス等にて郵便番号・住所・氏名等を記入の上、お申し出ください。

## 編集後記

「♪年の初めの ためし(例)とて 終りなき世のめでたさを…」ネット検索すると皇室の繁栄を祈る歌だそうです。この歌は、1月5日に出雲大社で行われる説教始祭(せっきょうはじめさい)で、全員で歌われるとか。お正月に田舎に帰ると今年は雪、野山が白銀の世界でした。原風景に思わず口ずさみました。タブレット世代には分からないだろうな。聞いたことはあるかな?まずは、明けましておめでとございます。

今回の広報・新春号には山下理事長・学長の年頭所感を特集しました。新年賀詞交換会で熱く語られた内容です。教育、研究、診療、法人、新学舎、将来像とそれぞれの分野ごとに具体的なメッセージが盛り込まれています。今年の6月には、いよいよ新学舎が着工します。構想がいつの間にか実現へ向かっています。皆様の心に響くものがあつたのではないのでしょうか。将来像に至っては、ホップ・ステップ・ジャンプ、創立100周年まで見越したビジョンです。卯年に相応しく兎の三段跳びです。徳永常務理事が新年挨拶で述べられました。「広報新春号を3回読んでください。賀詞交換会に出席できなかった方も読んでください」大学の歩む道がみえます。

年の初めは、身の引き締まるものです。初心に帰って「今年こそは」「今年の目標は」などー改めて考える睦月かな。皆様にとって良い年でありますように。

(M.N)

## 関西医科大学広報 Vol.12

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 総務部 広報課  
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15  
TEL 06-6992-1001(代表)  
FAX 06-6993-5221

http://www.kmu.ac.jp/  
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp  
平成23年1月15日(土)発行